

CONTENTS

大阪消防 6

表紙：大阪・関西万博消防センター
隊員の後ろ姿

01：コンテンツ／災害概況	22：We are Rookies !!
02：特集 令和6年度 国際消防救助隊員研修	24：大阪の消防NEWS
04：2025年大阪・関西万博 ～安全・安心な万博の幕開けと医療体制～	26：人材育成のヒント
06：ココ改善！	27：地域防災の輪、ひろがっています
07：ソナエの教室	28：住宅用火災警報器で歌おう
08：ケイボウタイムズ	29：落語DE火の用心
10：コマンドアイ	30：【職務】防火・防災管理等オンライン講習について
12：明日に備えて過去に学ぶ	32：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより
14：【職務】第72回 消防職員意見発表会	33：現場に活かす！救急救命士国家試験問題
16：Just Do It！	34：消防漢字ガール
18：救急いろは	35：健康ダイアリー
20：実録!! 調査鑑識	36：功績表彰
	40：救急安心センターおおさかだより／編集後記

大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
4月中件数	2	1	12	32	47	4	0	0	5	56
令和7年 4月末累計	10	7	66	142	225	10	0	0	28	263
令和6年 4月末累計	3	7	63	129	202	17	0	2	20	241
累計比較	7	0	3	13	23	▲7	0	▲2	8	22

◎救急概況

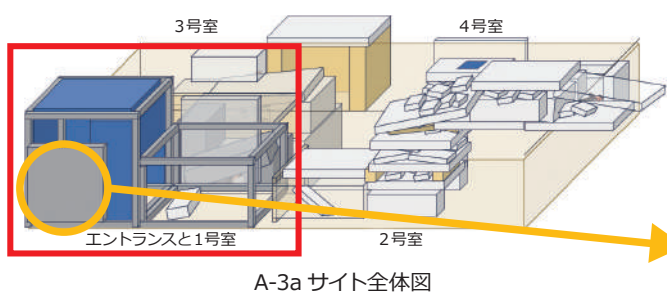
	救急出場
4月中件数 (概数)	19,035
令和7年 4月末累計	91,515
令和6年 4月末累計	90,933
累計比較	582

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他
令和7年 4月末累計	1,547	456	0	448
令和6年 4月末累計	1,540	401	0	372
累計比較	7	55	0	76

訓練想定：「72時間」まで残り19時間

山岳地帯に近い市街地での地震により、土砂崩れ及び建物の倒壊が発生したと想定。8つの活動サイトがあり、15名の要救助者を配置した。1小隊10名編成とし、計4小隊が活動するなかで救助活動に全力を注いだが、残念ながら5名の要救助者を救出することができないまま、活動を終えることとなった。今回は、その中でも最も活動が難航した「A-3aサイト内のエントランスと1号室付近」での活動について紹介する。



22:50 開口部の作成を開始



倒壊した建物内に進入するための開口部を作成。内部からは要救助者の反応がある模様。

翌5:00 要救助者に接触



支柱作成完了後、倒壊した建物内で医療班の処置をサポートしながら、要救助者に接触。

翌00:00 建物内に支柱を作成



余震発生時の倒壊防止及び緊急退避場所として、建物内の限られたスペースに支柱を作成。

翌6:00 救出完了



要救助者が安心できるよう、声をかけながら搬送。

翌6:40 要救助者の反応有
さらに奥へと進んだところからもう一人の要救助者の反応があり、接触を図るために建物の内壁を破壊し、進入経路を作成。

翌7:30 要救助者を視認
内壁を破壊後、要救助者を視認。しかし、大量の瓦礫に進路を阻まれ救出完了には至らず。

翌8:00 訓練終了

～ 訓練を終えて ～



山下係長 JDR技術検討員
(訓練担当兼訓練参加者)

本訓練は年に4回実施している国際消防救助隊員研修の総まとめです。関係機関にも参加していただき、実派遣さながらのメンバーで実施しました。当日は気温も低く、雨、風にも見舞われました。体力、集中力がそかれる過酷な環境の中で知識・技術をフルに発揮し、「要救助者を1秒でも早く救出する」ために士気、集中力を維持しながら訓練ができたことは隊員にとって非常に有意義でした。結果的に、すべての要救助者を訓練時間内に救出することができず、非常に悔しい思いをしたと思います。しかし、その悔しさを糧に、日々精進してほしいと思いました。



武田司令補 ASR隊員
(訓練参加者)

人とのつながりの大切さを強く感じた訓練でした。救助活動を実施している際、過酷な環境下でも長時間にわたって気持ちが切れなかったのは、一人でも多くの命を助けるという同じ目的を持った仲間と共に活動できたからです。実際の派遣では、さらに過酷な環境が待っていることを想定しています。活動隊員同士のつながりを深めることで、要救助者に寄り添い、1秒でも早く愛護的な救出活動ができるよう、これからも研鑽していきたいと思っています。この経験を通じて、仲間との協力がどれほど大切かを改めて実感しました。

◆ 訓練担当者からのメッセージ ◆

本訓練は、大阪市消防局の救助隊員の中でも、選ばれた隊員しか参加を許されない最高峰の舞台である。参加隊員は、本訓練でしか得られない経験を、他の救助隊員に積極的に伝えていただき、当局の救助隊員の資質向上に寄与していただきたい。(警防課(救助))

令和6年度 国際消防救助隊員研修

— 27時間訓練 — 2025.3.18～3.19



海外で地震などの大規模な災害が発生した際、被災国からの要請を受け、日本政府は国際緊急援助隊救助チーム（以下、「JDR救助チーム」という。）を派遣します。外務省、警察庁、消防庁、海上保安庁、医療班、構造評価専門家、そしてJICAの業務調整員で構成されるJDR救助チームの能力は、国際的にも高い評価を受けています。

大阪市消防局では、政府の派遣要請に対応できる精鋭の救助隊員を局内から25名選抜し、国際消防救助隊員（以下、「IRT隊員」という。）として登録しています。

その25名を中心に、令和7年3月18日から19日にかけて、大阪府内・兵庫県内消防本部のIRT隊員、大阪府警察本部、海上保安庁及び医療班、構造評価専門家が参加し、実際の派遣をシミュレーションした27時間の訓練を行いました。

このページでは、救助隊の精鋭たちが、ほぼ不眠不休で行ったリアルな大規模訓練の様子を紹介します。

～ 訓練の流れ ～

9:30 ～ 13:00

被災地に入るまで
(シミュレーション等)



結団式



被害状況の伝達



被災地での活動準備

13:00 ～ 翌8:00

被災地での想定訓練



救助犬で生存者を捜索



道路崩落現場での活動



倒壊建物での活動

翌8:00 ～ 10:00

被災地からの帰国、
解団



活動終了時の申し送り



振り返り



解団式(成田空港を想定)

いっしょに、いこな！ \2025年 大阪・関西万博／ ～ 安全・安心な万博の幕開けと医療体制 ～

万博会場では、皆様が安心して楽しんでいただけるように、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会（以下、「博覧会協会」という。）が、医療救護体制を整え、消防局はそれに協力しています。医師、看護師、医療スタッフが常駐する3つの診療所と、5つの応急手当所が設置されており、大屋根リング内で傷病者が発生することを想定し、狭い道路にも対応できる軽自動車のEV救急車も導入されています。

その上で、重症の患者が出た場合には、大阪市消防局の救急隊が迅速に会場外の医療機関まで搬送できるように博覧会協会と協力し、救命の連鎖をつないでいきます。

万が一、会場内で同時に多くの傷病者が発生した際は、傷病者をいち早く万博会場にいる医師のもとへ搬送し、会場内の施設や医療器材を有効活用するなど、博覧会協会の医療チームと連携して救急対応します。

これまで数多くの災害に対応してきた消防の現場対応力と高度な処置を可能にする医師の専門的な技術を結集させ、万博会場のあらゆる事案に対応します。



開幕前には、博覧会協会と合同訓練で連携を深めた

電動ストレッチャーの概要 ※Power-PRO 2 Stryker社製	
昇降範囲	104cm～36.6cm
全長	最短：152.4cm 標準：206.7cm 最長：213.4cm
全幅	57.4cm
耐荷重	318kg

万博救急隊が使用する電動ストレッチャーは、大阪市消防局では初めての導入となります。耐荷重は驚異の318kg。長さも変更可能で、狭いエレベーターにも進入することができます。また、従来のストレッチャーよりタイヤがひと回り大きく安定しているため、段差も容易に乗り越えることができます。ストレッチャーを引いて移動する際も隊員の負担が少なく、活動範囲の広い会場では必要不可欠な資器材です。

最大の木造建築物としてギネス世界記録に認定された、万博のシンボルである



女性隊員2人でも負担少なく

おわりに

万博消防センターは、安全対策を整え、皆さまが安心して楽しむことができる万博を目指しています。

開幕後のこれからの季節は暑い日が続くことが予想されますので、熱中症対策を万全にしてお楽しみください。

いっしょに、いこな！ \2025年 大阪・関西万博／ ～ 安全・安心な万博の幕開けと医療体制 ～

開幕から50日が経ちました！

※（令和7年6月1日現在）



開幕をむかえました！

4月13日に大阪・関西万博（以下、「万博」という。）が開幕して以降、連日、万博会場には世界中から沢山のお客様が訪れ、その多様な文化や技術の祭典を楽しんでいます。

5月号では、万博消防センターの配備車両や施設の面から万博会場内の安全・安心への取組を紹介しました。

今月は、4月12日に行われた開会式の様子と、万博の医療体制について紹介します。



連日、盛り上がりを見せる万博会場

開会式と開幕日初日の様子



開会式当日の全体ミーティングの様子

開会式当日は、各国の関係者らが出席し、著名人による演奏や映像を映すなど様々なパフォーマンスが行われ、会場は、大いに賑わいをみせました。

万博消防センターでは、特別第1警戒を実施し、市内の消防車両17台を集結させ、総員59名体制で警戒にあたりました。

翌日の4月13日には万博開催日初日を迎え、生憎の天候にも関わらず、14万1000人が会場を訪れ、各国のパビリオンを満喫していました。

これまでの私たちの準備が安全・安心な万博の開幕、そして、来場者のたくさん喜びと感動につながったことを大変嬉しく思います。

【特別第1警戒実施中】



17隊の消防車両が万博消防センターに集結

大屋根リングのエレベーター内でも、長さを調節することで使用でき、大屋根リング状へ持つていくことが可能です。

今月から始まる「ソナエの教室」。
このコーナーでは、日常生活の中で
遭遇する突然の災害に対して、どの
ようなソナエが必要か、皆さんにわ
かりやすくお伝えしていきます。

いざという時のために、一緒に学
んで備えましょう。



の 教室 ソナエ

みんなで
学ぼう

今回は…

大雨による災害

へのソナエです



昨今、日本では気候変動等の影響により、短時間で大量の雨が降る「線状降水帯」が発生しやすくなっています。これにより、局地的に非常に激しい雨が降り、私たちの生活に予想を超える被害をもたらすケースが増えています

大阪（大阪市中央区）では、平成23年8月27日に1時間に77.5ミリの降水量で観測史上1位タイとなる大雨を、平成25年8月25日には同じく大阪市中央区で10分間に27.5ミリの降水量を観測しました。この大雨で床上床下浸水が多数発生し、道路が冠水するなど、私たちの生活に大きな影響が出ました。

80mm/hって
どのくらい？

【参考】 1時間に80ミリの降水量とは、水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる、車の運転は危険、傘は全く役に立たない、という状態になります。（気象庁HPより）

このような大雨にあったとき、皆さんはどうしますか？



注意するポイント

河川、用水路、
アンダーパス等、
危険な場所に
近づかない。



地下にいる場合は速やかに
地上へ避難する。

ハザードマップ、避難場所を
確認し速やかに避難する。



避難時のソナエ

長袖、長ズボンを着用、軍手、
ヘルメットをつける。
（ヘルメットがなければ帽子）

荷物は必要最低限に。
両手が塞がらないよう、リュックに入れる。

傘は差さず、杖として使用し、冠水時に側溝
やマンホールで穴が開いていないか確認しな
がら歩き、はまらないように注意する。

靴はスニーカー（運動靴）を
履く。
⇒長靴では、中に水が入って
重くなり、また、排水も
できず、動きづらくなる。



被害をもたらす局所的大雨

予防課防災指導では、大雨による被害について体験してもらえる市民消防
教室を開催し、都市型豪雨体験を実施しています。（6月・7月）
大阪市に在住・在勤・在学している方が対象です。ぜひご参加ください。



豪雨体験の様子



ー 北消防署の事務改善事例をピックアップー

近年、訪日外国人観光客（インバウンド）の増加に伴い、災害現場でも様々な国から訪れた人達とコミュニケーションを取る機会が増えています。そこで、外国人との会話に苦手意識を持っている職員でも、災害現場で効率的に情報を収集することができる補助ツールを作成・活用した取組について紹介します。



パウチ携行なしでの対応

ココ改善!



パウチ携行での対応

きっかけは？

当署管内にはホテル、ターミナル駅、繁華街などがあり、普段の災害活動から外国人と接する機会がありました。これまでも簡単な英語などで何とかコミュニケーションを取っていましたが、大阪・関西万博が開幕し、さらなるインバウンドの増加が予想されることから、その対策として新たな取組を始めました。

取組内容は？

災害時に情報収集すべき事項について、外国人関係者が「Yes」、「No」などの指差しで簡単に回答できるよう質問事項を簡潔にし、それをよく使用される複数の言語で作成しました。活動時の使い勝手を考慮し、ポケットサイズに印字したものをパウチ加工し、携行しています。（写真参照）なお、各質問を外国語に翻訳する際は、当市で導入している生成 AI（Oasis）を活用しました。

取組後の効果は？

実災害時に外国人関係者と効率的かつスピーディーにコミュニケーションをとることができました。その結果、情報収集に要する時間を短縮でき、迅速な現場活動につながっています。

改善後の声は？

外国人観光客とのコミュニケーションに苦手意識を持つ職員が大多数でしたが、この補助ツールの活用によって、これまで以上に積極的に情報収集ができるようになりました。引き続き、所属での訓練に取り入れ、コミュニケーション能力を強化しつつ、新たに効果的な対策を模索し、グローバルな消防署を目指したいと考えています。

企画課 事務改善担当からのコメント

万博に伴い世界的にも「OSAKA」が注目され、インバウンド対策の必要性が高まる中、非常に効果的な取組だと思います。Oasis等の活用により各所属で容易に取り組むことができる事例なので、インバウンド対策に困りの所属はぜひ取り入れてみてください。

ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第14回 消防水利に関する業務について

警防課〈水利担当〉

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。
「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

はじめに

警防課水利担当では、水道局及び建設局と連携し、「消防水利（公設消火栓）」について、円滑かつ迅速な消火活動のため、消火栓の新設・撤去に伴い、消火栓の設置位置の調整を行い、故障や不良があれば水道局に修理を依頼し、使用できるように調整等を行っています。また、地震などの大規模災害時の水源の確保についても、水道局の水道管耐震化事業と併せて公設防火水槽の整備を行っています。今回は、消防水利の基本的な考え方を紹介します。

消防水利整備基準

「消防水利の基準」を満たす消防水利により、その取水部（マンホール中心、採水口）を中心とした半径100mの円による包含で整備状況の確認を行います。

◆有効な消防水利の基準

- 消防水利は、常時貯水量が40㎡以上又は取水可能水量が毎分1㎡以上で、かつ連続40分以上の給水能力を有するものでなければなりません。
- 消火栓は、呼称65の口径を有するもので、直径150mm以上の管に取り付けられていなければならない。

◆公設消火栓による水利包含

火災時の消防活動の基盤となる消防水利である公設消火栓を大阪市内に確保するため、水道局の水道管工事の際に、公設消火栓の配置状況を「100m包含」により確認します。

◆公設消火栓により包含が困難な場合

大阪市内には商業エリア、住宅地、工業地帯など多様な立地が混在しており、すべての場所で公設消火栓による「100m包

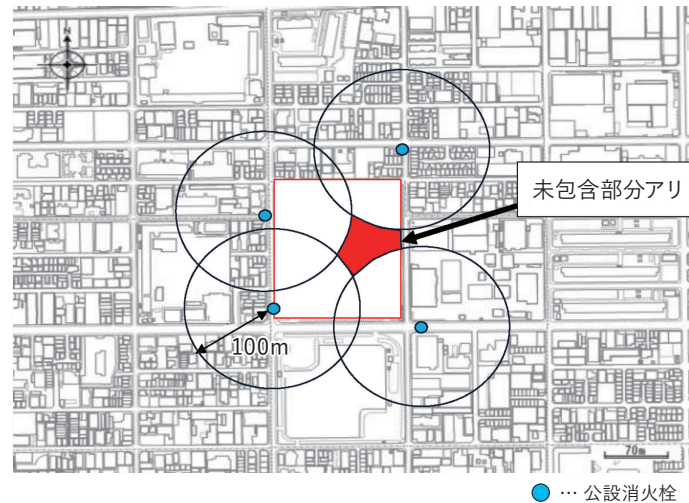


援護注水を受けながら要救助者を検索する救助隊

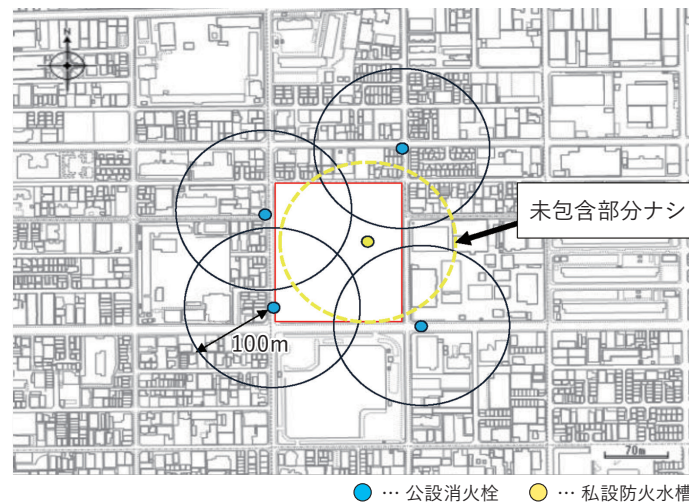
【援護注水とは】

火災現場で視界を確保し、熱や煙から消防隊員を守るために実施する。特定のエリアに注水することで冷却及び排煙効果が期待でき、要救助者を保護する効果もある。

公設消火栓による包含が困難なケース



私設防火水槽設置後のイメージ



含」を実現するのは簡単ではありません。

そのような地域での消防水利を確保するため、大規模な土地開発等の際に事業主と協議を行い、消防水利の基準を満たす「私設防火水槽」や「私設消火栓」の設置に関する指導等を行います。

「私設防火水槽」は、地下や地上に設置される貯水施設で、消防用水を常時確保するためのもです。この水槽は耐震性能を有してい

るため、公設消火栓が利用できない大震災などの大規模災害が発生した場合でも、消防隊や地域防災リーダー等が活動する際の水源として活用することができます。

一方、「私設消火栓」は、個人の敷地内に設置された消火栓です。私設の防火水槽及び消火栓についても、所轄消防署長と指定承諾を取り交わしているものについては、災害時に使用可能となります。

おわりに

警防課水利担当の仕事は、有効な消防水利の配置等を進めていくことです。その中で一番大切だと感じるのは、最前線で消火栓を使用する消防隊との「顔の見える関係」です。というのも、現場サイドの消防隊からの意見（消火栓使用の際に感じたことや操作上の不具合等）をもとに、今後の水道局との消火栓協議において、消防隊がより使用しやすい消火栓の設置を進めることができるからです。

これからも、火災などの災害から市民の生命、身体、財産を守るべく、消防水利や防火水槽の整備を継続していきます。



大阪市消防局警防部警防課水利担当

2025年4月1日から新体制となった水利担当です。市民の安心と消防活動の強化を目指して、引き続き尽力致します。
(左から、川西、吉永、滝口、塔本、北川)